

課題②地域に親しまれ、安全で持続可能な学校運営を実現するための提案

1 地域を感じ、地域に開かれ、地域に親しまれる学校

ランチルーム「やっちくホール」を中心に、地域の人々が集いやすくし、長い廊下を利用した「地域ギャラリー」では歴史や文化を感じることができます。学校が地域に開かれ、まち全体で子供を見守ることができる環境をつくります。

【屋内と一体的な利用】

ランチルームと既存校舎の間に気軽に出入れるデッキと芝生広場を設け、屋内と一体的に使える場所とします。

(利用例)

- ・屋外で調理を行い、ランチルームで食事。
- ・地域開放室でお話し会、デッキで昔遊び。



まなびの広場

1. 地域に開かれた1階の開放エリア

【特別教室の一般開放】

地域の方が講師となる授業を展開できるように外部から出入りしやすい1階に「美術室・技術室・調理室」を設けます。

【地域開放室(地域カフェ)の設置】

地域の方が気軽に訪れることができる地域開放室を設置し、地域の方とのふれあいの場・イベント時の控室として利用します。

【図書室の一般開放】

地域の方も利用可能な図書室とします。地域交流室やデッキの上で読書したりと、他にはない気持ちいい読書環境をつくります。

【小さな子どもから高齢者まで】

ふたつの広場には、芝生やデッキ以外にも、菜園や飼育小屋、インクルーシブ遊具があり、年齢を問わず過ごすことが出来ます。



みんなで一緒に砂遊び

2. 地域ギャラリーの設置

各小学校・地域の歴史を感じることができるギャラリーを渡り廊下に設け、地域の方が訪れて想いを馳せたり、子ども達に説明したりできるように開放します。

3. 地域材の利用・木と育む学校

材種・形・仕様・使う場所で色々な表情を見せる木材を多様に使い、子ども達が木を感じ、木とたわむれるような学校とします。

【木が象徴的な木造ランチルーム】

大きな空間に、木造の柱や梁がダイナミックに見え、木の力強さを感じる空間です。温かみのある木に囲まれた空間での給食はさらに美味しく、楽しくなります。

【適材適所・内装材の木質化】

床・壁・天井に木材を利用します。「踏み心地がいい木床、香り立つ木壁、柔らかい木目が目にやさしい天井」など教室や廊下を中心に、木がイキイキする空間を提案します。



柔らかい教室空間



気持ちのいい廊下

【建設工事を通じた学び・交流機会の創出】

統合する学校の児童・生徒・地域で行う「やっちくホール上棟式」や「学校サインワークショップ」、「木の工事だより」など、木材を通して、学びと交流の機会をつくります。

既存校舎(1号棟)

1階

ランチホールやデッキに面する1階は、学校のだれもが使いやすく、地域の方々との活動もしやすいよう、図書室や特別教室を配置します。

2階

2階には、落ち着いて勉強ができるよう、後期課程の2学年の普通教室を配置。後期課程の特別支援学級は同じフロアに配置し、同世代との交流がしやすいように計画しました。

新校舎

1階

前期課程の普通教室と特別支援学級を配置。普通教室は雁行配置にして、各教室にオープンスペースを確保します。特別支援学級は、視覚的な刺激の少ない法面側に配置し、中庭に面した廊下を介し、やわらかな自然光が広がるよう設計します。

2階

中期課程の普通教室と職員室等の管理スペースを計画。ランチルームや地域開放エリアに直接つながるフロアで、中期課程の生徒たちが先生や地域の方々と積極的につながり、学校の活動の中心としてリーダーシップをもって活動できる配置とします。

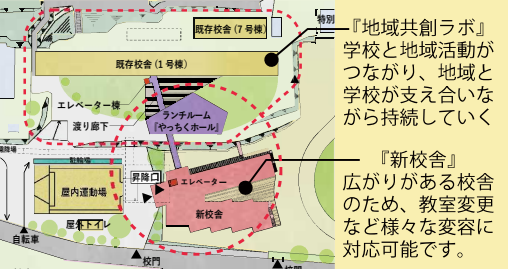


3 持続可能な学校運営

1. 将来を見据え進化する学校づくり

【児童生徒数・教育の変容に対応】

将来、児童生徒数の減少や地域開放が進む際に、新校舎の多目的スペースを教室に転用したり、特別支援学級に間仕切りを設置して教室数を増やし、既存校舎を「地域共創ラボ」として開放することも可能です。



【様々な可能性を含んだ施設づくり】

少子高齢化が進む地域で、公的なコミュニティ機能の維持が難しくなることも想定されるため、地域の拠点づくりの可能性を含んだ拡張性のある施設整備とします。

将来像、保守管理、運用の観点から、持続可能な学校運営を実現する施設づくりを行います。

2. 将来負担の少ない手に負える建物

当初建設費の約1.5倍が必要とされる修繕更新費に対して多面的にアプローチし、地域や市民へ負担の少ない「手に負える」建物づくりを目指します。

【長寿命な建物づくり】

建物として堅牢な材料・仕様を選定し、長寿命化を図ります。

- 100年近い耐久性のある高温焼成瓦
- 建物の劣化を防ぐ深い軒
- 水セメント比を考慮した高耐久躯体の実現

【更新しやすい設備計画】

更新が必要な空調設備・給排水設備については特にルートや設置場所に配慮します。

- 予備スペースを備えたPS・EPSの確保
- 配線・配管ルートの整理
- 各所に設置する機器の標準化と同一化
- 汎用性の高いシステムの採用
- 管理・更新しやすい床下ピット配管

3. 学校教職員が運用しやすい施設

数年単位で学校教職員の入れ替えがある学校施設において、誰が来ても使いやすく、気持ちよく使ってもらえるよう、教職員の立場に立つ施設づくりとします。

【分かりやすさ】

既存校舎が複数あり、それぞれの建物で使い方が異なります。出来る限り既存施設と新校舎での平準化を目指します。

- 新校舎と既存校舎で鍵を統一
- 設備系統の整理
- 学校全体のマニュアル整備

【清掃・保全のしやすさ】

日々の清掃のしやすさに配慮し、長く気持ちの良い状態を保ちます。

- 水廻りは清掃性が高く・抗菌性のある材料
- 使用材料を絞る、清掃・保守方法を減らす
- 隙間がない什器レイアウト計画
- ノンワックス床材の使用
- 植栽と舗装部分のしっかりした区分け

